

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
堀内正博			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
矢野 晋吾		青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-140701-0	4人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

2014年度の社会調査実習は受講者が4名と例年より少なかったが、学生間の連携はよく取れていたと思う。受講者が4名であったためでもあるが、サンプル数が700を超え、入力に時間がかかったことは反省点である。問題の設定から、アンケートの設計・回収、分析までの一連の手続きを実習の対象としているが、受講者数によって力点の置き方を一部変える必要性を感じた。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

大学生のコミュニケーションに関する調査

2. 調査の内容／概要：

大学生のメール、SNSなどのコミュニケーションツールの利用に関する調査である。大学生がSNSなどのコミュニケーションツールをどのように使い分けしているか、学生の行動にどのような影響があるかなどを調査した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

母集団は大学生。標本数は704サンプル。サンプリングは、ランダムサンプリングではなく、標本収集の容易さを優先し、青山学院大学の学生を主たる対象とした。

4. 主な調査項目：

コミュニケーション能力、キャリアに関する意識調査、コミュニケーションの取り方、利用しているコミュニケーションツール、など。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

質問紙法

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2014年9月～10月実施、青山学院大学をはじめとした都内の大学、調査員は受講学生4名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

母集団は大学生であるが、青山学院大学の学生が主たる被調査者であり、この面からはバイアスのあるリサーチといえる。有効回答数は676サンプル。回収率は100%

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

記述統計

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

個人属性とコミュニケーション能力の関係、コミュニケーションツールの使い分け、SNSの利用とコミュニケーション能力の関係、コミュニケーションツールに対する満足度、など

10. 報告書刊行の予定と概要：

簡易製本により報告書を作成済み。調査データの概要、調査分析の結果、資料からなる。